

二七五九番

我がやどの 穂蓼古幹 摘み生ほし 実になるま
でに 君をし待たむ

二七六〇番

あしひきの 山沢ゑぐを 摘みに行かむ 日だに
も逢はせ 母は責むとも

二七六一番

奥山の 岩本菅の 根深くも 思ほゆるかも 我
が思ひ妻は

二七六二番

葦垣の 中のご草 にこよかに 我と笑まして
人に知らゆな